Come On! 文化部 18

快適、豊かな生活へ工夫

大館桂桜高家庭クラブ

大館桂桜高校（大館市）家庭クラブには、普通・生活科学科の1年生と、生活科学科の2・3年生全員が所属している。県内16校でつくる県高校家庭クラブ連盟に加盟。19人の役員を中心に、学校や地域生活の充実・向上を目指して毎年研究活動に当たっている。

「エネルギーの無駄をなくそう」。本年度はこんな年間テーマを掲げた。最近の電気料金などの値上がりでどのような影響が出ているか知るとともに、身近なものを生かしてどんな工夫ができるかを考えるためだ。

同校によると、2022年度の電気代は、21年度に比べ200万円以上増えたという。学校の事務担当者からこうした状況を聞いた上田翔さん（2年）は「一気に増えていて驚いた。無駄な電気使用を減らさなければ感じた」と話す。

テーマを達成するための取り組みの一つとして始めたのが、首元冬冷やすネッククーラー作り。電気を使わずに過ごす暑さ対策として、また、家庭科の授業で余った布を使うことでこみの減量にもつなげる目的がある。

8月下旬、放課後の被服室ではクラブ員の7人が、授業で身に付けたミシンの技術を使って丁寧に一本一本縫い上げた。前で結べるように、1本の長さを約7センチ、幅9センチに設計。首元が当たる部分には、保冷剤が入るポケットを付けた。駐屯の藤山揚羽さん（2年）は「とても涼しい。たくさんの人に知ってもらいたい」。これまで作った本数は計約120本。体験入学で訪れた中学生や校内の体育祭で希望者に貸し出したところ、反応が良かったという。

教室環境に取り組んでいるグループは、8月から校内の教室の室温を比較する実験を始めた。大館市では同月9日に観測史上最高の38・8度を記録、厳しい暑さを避けるためのアイデアとして、2年生の生活科学科の教室の窓にシートなどを貼り、温度変化を記録している。高橋楓果さん（同）は「日光を遮った教室は涼しく感じられた。生活の中で工夫できることはまだありそう」と話す。

他にも節電を呼びかけるグループは、小まめに照明を切るよう記したステッカーを各教室に掲示した。

こうした活動や研究の結果は毎年10月に開かれる「全県家庭クラブ研究発表大会」で発表する予定だ。嶋田栞央さん（同）は「皆で協力し合うことで、大きな課題も解決のヒントが見つけられると実感している。地域の皆さんにも発信し、快適で豊かな暮らしを送れるよう、幅広い世代の人たちが取り組んでみたいと思えるような工夫を考えたい」と話した。

（石塚陽子）

〈第1日曜日に掲載〉

大館桂桜高家庭クラブの役員

授業で余った綿布をミシンで縫い上げ、ネッククーラーを作る家庭クラブのクラブ員らは、出来上がったネッククーラーを首元がひんやりとして涼しい

室温の変化を調べるためシートを貼り付けるクラブ員

地域の味、伝承に力

恒例「卒業かまぼく」

家庭クラブは、大館北秋田地域の伝統菓子「かまぼく」の伝承にも取り組む。クラブの前身である大館高家庭クラブの時代から引き継いでいる活動だ。

かまぼくは米粉にゆでたジャガイモを混ぜて生地を練り、巻いて蒸したかまぼこ形のお菓子。冠婚葬祭の席などで多く出された。内陸の山間部で魚が手に入りにくかったため、編み出したといわれるが、今では家庭で作られる機会が少なくなっている。

家庭クラブでは、卒業式の日に感謝の気持ちを込めて3年生に贈る「卒業かまぼく」を作るのが恒例行事だ。地域の小学生や親子向けにも講習会を開き、技術をつないでいる。

小坂町から通学する池田静奈さん（3年）は、高校入学までかまぼくの存在を知らなかったといい、「もっちりしていて甘くておいしい」。クラブで作り続けて学んだ、きれいに作るこつは、手早く巻くこと。こうすると、巻いた時にひび割れないという。

大館高時代からレシピを教えてきた大館市曲田の農産物直売所「陽気な母さんの店」社長の石垣一子さん（69）は「かまぼく作りの技術を持つ人たちは高齢化が進んでいる。若い皆さんが地域の伝統食を守り伝えてくれることに、とても感謝している」と話した。

家庭クラブのクラブ員が作った「かまぼく」

◇会長から一言◇

良い未来創りたい

斎藤 美波さん（3年）

特に心に残っている活動が、昨年取り組んだタマネギの皮の再利用です。普段は調理実習や家庭で廃棄している皮を煮出して染液を作り、被服製作で出た余り布を染めました。

爽やかな黄色に染まった布で巾着を作って地域のイベントで提供したところ、「家でもやってみたい」「色がきれい」と声をかけてもらいました。新しい発見をする楽しさ、地域の人たちと関わる喜びを感じた体験でした。

身近な課題を見つけ解決していくためには、自分たちの日々の生活を見つめ直すことが大切だと感じています。私たちの活動を地域に広げ、そこに住む方々と繋（つな）がり、協力して良い未来を創っていきたいです。

意見を出しやすい雰囲気も、私たちのクラブの良さです。ぜひ家庭クラブ員とともに活動しませんか。

▼創設年＝2016年。前身は統合前の大館高家庭クラブ。
▼クラブ員数＝166人（1年103人、2年31人、3年32人）
▼近年の主な実績＝2021、22年東北ブロック高校家庭クラブ連盟研究発表大会優秀賞、22年県高校産業教育フェア体験・研究発表会優秀賞。